

飯塚市立庄内中吹奏楽部に
よるアメリカ国歌「星条旗」
の演奏。米国からの生徒14人
は全員直立し、胸に手を当て
た。市が友好都市の米国サニ
ーベール市と続ける中高生の
相互派遣事業は3年目。16日
にあった今年の訪問団の歓迎
式典は、これまでで最も華や
かに幕を開けた。

演奏は「さくらさくら」「ア
イドルメドレー」と続き、部
員によるダンスなども披露さ
れた。「米国側保護者にもイン
ターネットで動画が共有さ
れ、感動の声が相次いだ」。飯
塚市教育委員会学校教育課指
導主事の蘭幸子さん(58)は盛
り上がった様子を振り返る。

語。生徒たちも「フォロー・
ミー(付いてきて)」などと
自然に会話をしていた。
同中は毎月、九州工業大の
留学生と交流しているほか、
国際協力機構(JICA)と
連携して開発途上国から教師
などを受け入れており、年間
約50人の外国人が来校すると
いう。「生徒たちは日ごろか
ら外国人と接する機会が多
く、相手の言葉を完全には理
解できなかったり、すべてを
伝えられなかったりしても、
英語を使うことに抵抗が少な
い」と英語教諭の長村裕さん
(35)は語る。

おもてなし

交流ノウハウ積み重ね

工夫をこらして歓待。事前に
準備した制服を着て登校して
もらったり、温泉に興味があ
っても浴場で裸になるのに抵
抗がある生徒のため、水着で
入浴ができる温泉を探して大
分県別府市まで出かけたらし
た。

「せっかく飯塚に来たのだ
から、飯塚でしかできない体
験を」と計画された流鏝馬の
見学、田植えなどは雨で中止
になったものの、長村教諭は
「地域の協力を得ることで、
外国人にさらに満足してもら
えるという可能性を感じた」
と振り返る。

今回サニーベール市の生徒
を受け入れたのは庄内中のほ
か、二瀬中と小中一貫校頼田
校、嘉穂高・付属中の計4校。

昨年の7校(8人)から受け入
れ校の数は減ったものの、日
本流の中高一貫教育の体験や
外部講師による水墨画の指
導など、各校が独自の取り組
みを進めた。蘭さんは「各校
一人ずつよりも、まとまった



飯塚市の麻生本家であ
ったお別れパーティーで
親しげに交流する日米
の中高生

ただ、週末をまたいた
こともあり、今回の訪問
で飯塚の学校生活を体験
できたのは2日半に限ら
れた。良好な関係を築い
てきた両市は現在、友好
都市という間柄を姉妹都
市に「格上げ」する手続き
を進めており、来年以降
は滞在日程を延ばすこと
も検討しているという。

人数で行動する方が米側が
安心するし、学校側も充実し
たもてなしができる」と説明
する。

出発前日に麻生本家で開か
れたお別れパーティーでは、
ホストとして寝食を共にした
中高生と米生徒とが席を囲ん
で食事や会話を楽しむ光景が
広がった。昨年までと比べて
も滞在期間中により深い交流
が行われたという印象だ。

クで南アフリカと交流を深め
る「ホストタウン」に登録さ
れ、同国車いすテニスチーム
の事前キャンプ誘致を目指
す。日米の交流で磨かれた中
高生たちは、4年後にも「お
もてなし」の最前線で活躍し
てくれるはずだ。(糸山信)

◆原則、毎週火曜に掲
載します。